

→ H4.4.13日 ④ 紀上247¹ 大神神社157¹ 紀上246¹ 住9 納穀
元1575¹ 2.635^P - 3/2

國

なお、よく知られてゐるようには、

「箸の墓は、魏志倭人伝に記されてゐる單

彌呼の徑百余步の塚であろう」

とすら説がある。へ日本古墳100選レ肥

後和田監修、竹石健二、秋田書店、二五〇頁

他多數の書参照

「かく、この弓箸の墓の築造年代は今

なに古くな、と云う。」

「箸墓の前方部はすでに発達のきやうを

みせ、また、墳丘に円筒埴輪の使用のあと

かうかかわるのと、とくべつ古く考へる二
とはむずかしい」

「11うのである。」「古墳時代」(日本考

古学、河出書房、二八一頁) 参照

「因みに述べると、

「近畿地方の古墳のうち、最古のもの一つ

と考えられてゐる猪井大塚山古墳(京都府相

無い。」

奈良県桜井市茶臼山古墳(四世紀築造)の

H30(2018)7.1(月)~7/3(4回)
H31(2019)2.8(金)~3/28(3回)
令和元(2019)7.14(日)~7.15(3回)
令和2(2020)2.24(日)~2.25(4回)

7/15
2/25 1 F 2/24
2/24

2,637 P

新(1)-169^Φ ④ 2988^Φ

「大神神社」138P 写真
③2616 未尾

2,638^P - 1/3

災難除 1862 丙午 2612 ④ 2616 未 1919 丙子 2848-34

御神火まつり 繰道祭

先述のようには、元1822年(文政5年)秋、大和の三輪山のお祓い事である。大和の三輪山の御幣は、赤色

ヒリう。〔第四十三章入御神火の項〕における

除けとて、赤御幣を授けり。一の赤は、三輪山の大神神社の社頭では、一災難。

御幣は大神様の憑り代として、各戸々の入口に立てられる
と云う。(大神神社・中山和敬、学生社、
と云う。(大神神社・中山和敬、学生社、

一三七負參照
大神神社の赤い御幣のお祓い事にて各戸
の戸口に立てらるる小さな赤御幣。これらは
恐らく、阿蘇山の日御神火の火の色をあら
ゆ一七二三のであろう。
(写真図版 431 参照)

三

20

43

• なぜかだから、
この点を、他と同様
の色にする。

袖社

袖神社を黒く
塗りつぶす
↓下さへ。

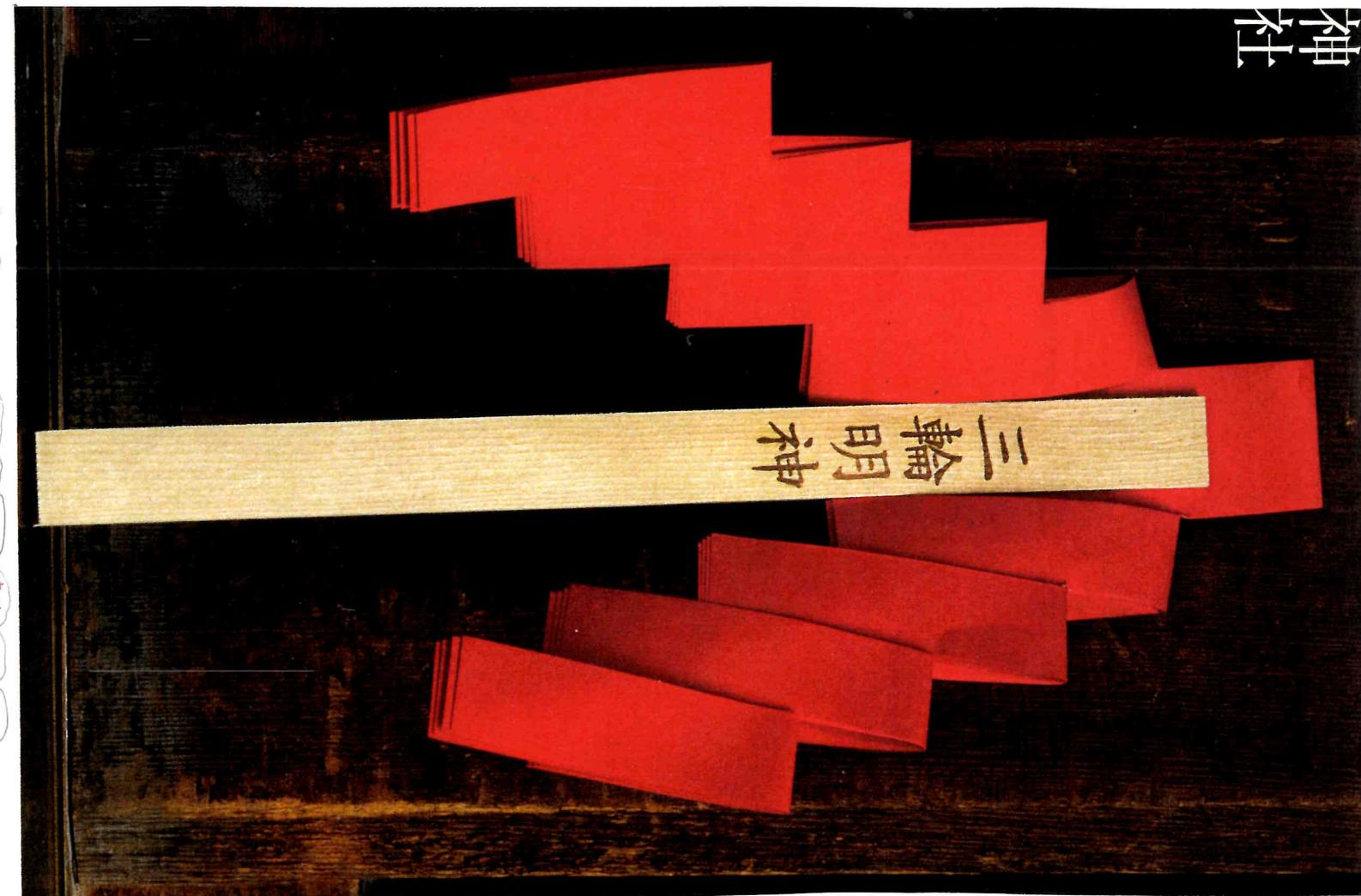
近傍の色と同様にする

- ・ カラー
- ・ 貞の右上。
(貞の 1/4)

2,638-2/3

著作権許諾は、
上方たたぎで結構
です。

中止されかけ
1409 写真版431 大神神社の赤御幣 (赤御幣)



「大神神社」三好和義・岡野弘彦・淡交社 平成16年2月13日発行 113頁
全国一の宮めぐり 学習研究社 2004年1月15日発行 114頁 参照
・大難を小難に 小難を無難にする御幣。玄関先に祀ると「厄革厄災」
内へ入るのを防ぐからです。

改行 2286^丁 夜半 纪下156未行
大神神社 172^丁 上行 (元 2286^丁)
入道加鏡子等 2648^丁 2/2

古い歴史をもつ大神神社には、現在は、新正月元旦午前一時から執行されており、大神神社の中山和敬、学生社、事とて、陰暦正月元旦、丑刻から朝にかけての神火祭に奉仕する例であつたが、午前二時まである。この御神火は、多くの者なから祭がある。なかでも有名な祭が、繞道祭と御神火まつりである。

$$\underline{2.638}^{\frac{P}{3}}$$

南1733
西1737
東1739

なあ、すでに述べたとおり、
へ往古の人々は、トヨタマツの頃、午前二時頃を一日の起点と定めたのである。
二時頃を一日の起点と定めたのである。
と因ゆかる。(第二十六章へ一日の起点の
項にて改述)
そこで、大神神社の繞道祭御神火まつり
の昔には、一日の起点を支水町へ
の左丑刻(午前二時頃)からとり行な
ゆかる。
のであらうと想察される。

200 cm
3.14 \div 63.7 cm
2642 cm
2848 cm \times 33
大神神社 172°

2.639 P 1/2

HIV

たし
と土地の古老はいう。

端先
を
お山の方へ向けて斜めに、柱殿にたてかけられて
いるのは、何とも雄壮なものであつ

神神社・中山和敬、学生社、一七二二三貞参照
六本を語製する。そして十二月二十四日の早日が
側に飾り付けて、そのまま正月を待つ。〔大

また、神饌松明と呼ばれる長さ六尺、太さ
一尺の中松明一本と、ほかに長さ二尺の
らおこなわれる燐松行事のあと、拜殿前の両

十二月に入道、後入道と称される二本の大松明は
実に何と、長さが八尺、太さが二尺もある。
先入道、後入道と称される二本の大松明は

十二月に入ると、神山の枯れた松の樹で、
数多くの巨大な松明を作り始める。

大神神社の本にはまだなんていふ

万二年正月一日

と、うものであうえが

祭場
儀場

同文
图3295¹³⁵ 大神御社 175°, (172°, 174°)

2,640^P - 1/2 嘉永第2023⁰ 大和神社 174

まよなべ
真夜中云 2094^P

あた
当うての先触水といふベキものなのであらう
そ思ひ
すでに拝殿前の斋庭はいうに及ばず、まゆ
りの建物、拝殿向拝にぎつしりの人が人。人。
で埋まつた正月一日の午前一時（昔は丑の刻）
から、いよいよ御神火まつりと称す
年初最大の祭典が始まる。
・ますや宮司の由の祝詞と奏上があり、
続いて、莊重な樂水流れるなか、三ツ鳥

大利神社 175°
(172°)

2,640° - 3/2

次頁
から

のみ
開扉
で
献饌
本祝詞
があり、一
かすむと
三ツ
鳥居は、年
に一度だけ、この祭の時
に

甲斐 H2.1.1 (2度目の探観)
「大神神社」には立派である

2.641^P - 1/5

かく 云々 429 大神神社 1759
奉拝 2018

H2.1.1 現在の実際の時間
（武）2639P 朝実測 振戻 前回

先刻の拝殿祭によつて火逐り出された忌火が、この火の粉が空を舞う。

三ツ鳥居の前で小松明に移りとられる。

後、一時四〇分頃となつたとキ、拝殿前の先入道、後入道（及び神饌松明）と呼ばれる大松明に矣火されるはニビとなる。

群衆の中から叫び声がかかる。火た。拝殿の奥から火がやつて来る。

燃えさかる松明を奉じた禰宜が、拝殿の正中を通りて拝殿の前へと走り出て来る。火が走る。

すでに二の垣には、拝殿にたてかけられて

先端部を斜め下方に一て待ちがまえて113。

先入道。後入道に矣火を小るこの一刹ニテ

照明は一斉に消され、森巖な御闇の中へと、万象ごとくか呑まられてしまう。

・気があせつて113からであろうか。なかな

・か火がつかない。しかし113に、三つの大松明共に火がとれて、その火はみみみ外方へ

・真赤に燃え上りてゆく。（写真図版433参照）

2.641P 2/5

- ・カラー
- ・右頁上半分に、はみ出でて
限度一杯大きく
載せて下さい。
- ・出来ただけ、明るく
お願ひます。



1409

写真図版 432 たいまつ て ねぎ はりでんまえ ひろは
松明を手にした禰宜が拝殿前の庭場へと
走り降りてくる

1309

『大神神社』三好和義・岡野弘彦、淡交社、平成16年2月13日発行、114頁参照。

2.641P-3/5

←左右をくっつけて下さい。

- ・カラー
- ・右頁の下半分に
はみ出で大きく
掲載下さい。



132G 140G 写真図版 433 大神神社、元旦の早朝行なわれる 繰道祭

(週間 日本の神社) 大神神社 デアゴスティーニ・ジャパン 2014年4月1日発行 20~21頁参照
三つ鳥居の奥で神宮によつて金贊(きんさん)だか(いんか)み(み)と(と)り(り)あ(あ)げ(げ)て(て)、三つ鳥居・拝殿(はいでん)内(うち)を通り、拝殿(はいでん)前(まへ)の大松明(おおまつみやう)等(のう)に点火(てんか)される。

391P

・カラー
 ・左頁上半分に、
 はみ出しつ
 限度一杯大正
 掲載下さい。



拝殿前で垂直に立つ
 三本の大松明



1304

1404 写真図版 434 はいてんまえ すい ちく だいいたいま
 拝殿前で垂直に立つ三本の大松明

『大神神社』三好和義・岡野弘彦 淡交社 平成16年2月13日施行 115頁参照



1404
P-1
1309

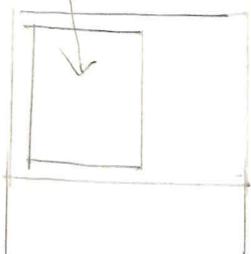
厚真囲版435

大神神社の境内を後にする
大松明

13
G
64
26
日本100の神社』JT B日本交通公社出版事業局、1988年1月1日発行、101頁参照。

13
G
64
26
三本の大松明は火のついた方を上にて拝殿前に直道に立ぎて(ばらくの間)行立
する。その後、各摂社・末社をめぐる。

・左頁の下半分に、ほみ朱に大まく掲載下さい。



2628
P-1
13
G

393
P

393
P

拝殿長たてがいはら ちよりつ 行立 云 1463⁹
れていた身のを、 行立 たたずむこと
又々に移板。

左光之
1373 H2.11

神山の古木た松の樹で作られていろ長さ
八尺、太さ二尺もある曰先入道山、後入道山

参拝者達は、手にした小松明或は火縄を差し上
げて、お火をいただくと押合ひ、手
み合ひ、ひとつ一か所庭広場は火の海と
こうして、正月を迎えた大神神社の境内は
人々であふれかえり、大松明の出立を前に
て、早くも山鳴りのような群衆音に包み込ま
る。

はただもうワアヒリいう異様な興奮の端に
醉へと転す。
三つの大松明は、火のついた方を上に一、
二つは下に一、三つは下に二と立てて南北向に一列に並んで暫くの間佇立する。
境内の処々に置かれた二尺

音かと思ひ乍らばかりに激しく連打され、人
舟殿の大太鼓が、地軸を搖るかす地鳴りの
ドントンドントンドントンドントンドントン
トントントントントントントントントントン

④ 2525°, 2527°~8° (和魂)
⑤ 2516°~7°

2,643

大80庄神 纪上128
④2647¹ - 1/2

そろそ
想起云 1283° 小林 398°
想の起る云と思の出

2.644⁰

④ 2639°-1/2

精氣云1217, 滅滅云2334
書え云1365 異まい土
リリし土

2,645^P - 1/4

光景元 734° ほつせん元
あらさま 勢然 2043°

火が燃え盛り、先端部を上方に向けて
大神神社の拝殿前に垂直に立てられて、
陽物が勃然と屹立して、まる様子を示してまる
のであろう。

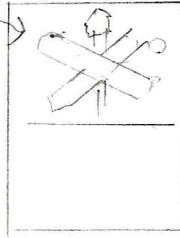
さて、大神神社境内の处处には、陽物を
境内の片隅や通路脇などに、御神火と
書かれた立札が立てられて、その立札の
写真図版436・437・438参照

思わせる次のような光景が見られる。(第335回)

柱に取付けられた、いは針金の輪か、長さ二尺
弱の松明の脇部中央あたりを抱えてまる。
と、松明の基部側に持ち上げられて、
斜め上を向いた松明の火に威勢がなくなる。
すると、火がついて、まる先端部は必然的に
斜め下方を向くことになり、火が斜め上方の
基部へ向かって燃えあがる。
こうして、凜とした勢いを取り戻し、精
気を充分に蓄えた松明は、一、二、三、再び、
斜め上方を睨んで、頭をもたげて、

2. 645^P - 2/4

右肩の上半分に
配置して下さい。



0.4
mm
の
太
い
線

右肩上かぎりの字体で、
御神火と書いておいて
下さい。



0.4mmの線で

小さい内を多數、ぎっり描いて
下さい。

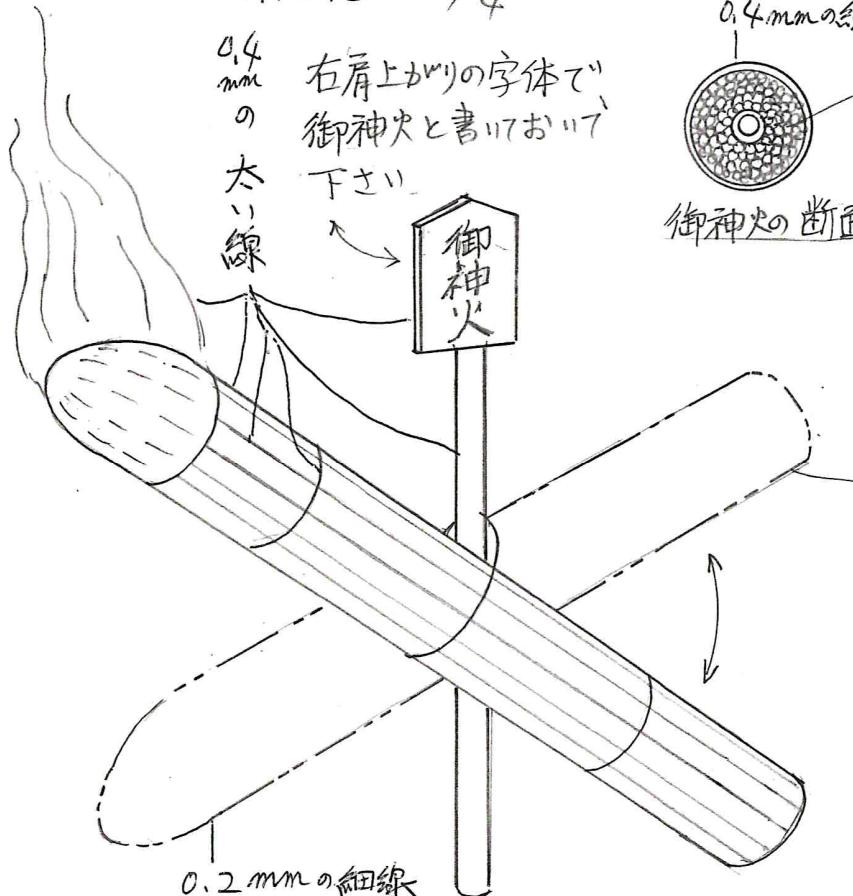
御神火の断面

点でなく、短い線

仮想線(—
—状の
二点鎖線)で
描いておいて
下さい。

0.2mmの細線

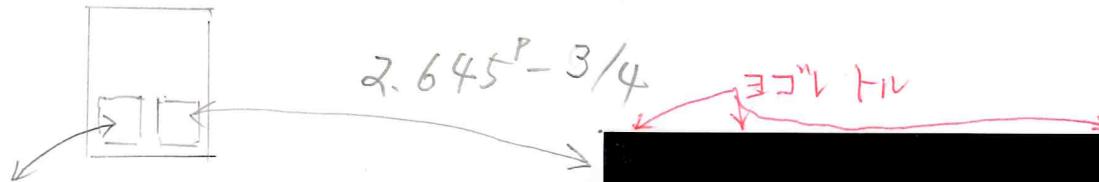
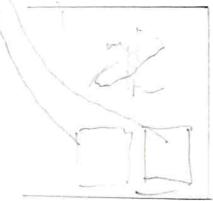
・トレースお願いします。



1409

第335図 大神神社境内の御神火 (約2×オル)

- ・カラー
- ・右側の下方に、又葉を配置して下さい。



中心ふりわけ
コナ
14QG — 写真図版437 斜め下方を向く御神火



中心ふりわけ
コナ
14QG — 写真図版436 御神火の末端部
・あがたけ
・中心に青竹が見える

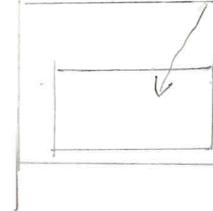
貞の中心ふりわけ
コナ
14QG — 平成2年1月1日、著者撮影

■ 貞のファイル
大神神社のところ
ファイルしている

2.645^P-4/4

・カラー

・左頁の
右半分に
大きく載せ
下さい。



カット



1409 写真図版 438 余料が上方を向いて熱り立つ御神火

1209 平成2年1月1日 下 著者撮影

実立云1492⁰ 2643⁰ 奈良云1979⁰ 小林608
立云1492⁰ 2643⁰ 奈良云1979⁰ 小林608

のまゝで
下下
元 繰り返す度 653°
大神神社 178°

次の
話、と
合わせ、

日語問題 650
神王 503

$$2.647^{\circ} - \frac{1}{2}$$

毛仁竹 中心 陰茎根 男井

創庭元湯田2642° 「大神神社」177° かびら云
唐櫃469° 一日数云126° 供奉云640° 84° 1353°
大神神社177° ④2648-1/2 放水株706°

2,647P-2/2

カット

・カラー
・顔の上半分に
大王く載せて
下さい。



1409 写真図版 439 一目散に駆けてゆく大松明 太鼓を走る。

カット

1209 平成2年1月1日 著者撮影 403°

ペイペリ = 陰嚢 ムカシ 1931
雪 陰嚢

セウヤ
捷社 1248°
本社上総故の深い
神を祀る。

2,648^P - 1/5

鳥居二女陰 ④ 2647-3/2 中

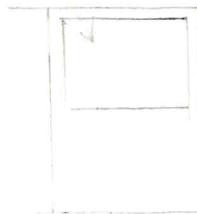
④ 2650°-3

また、明治時代までは八社のみを巡ってい
たが、現在は十八社に分えている。
先入道・後入道は、よりよ盛んに、青筋
をたてて燃えつづける。
恐らく、
「鳥居を、陰門」
攝社末社の神域を、女性の腹部、
に見たてているのであろう。
激しいばかりの男振り、
と繰り返す。

版 8° 441
1/5

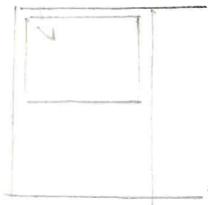
11/18
26
2014
11/18
大和神社
神輿
上車 下車 白旗 だという

- ・カラー
- ・右頃の上半分に
大きく載せ
下さい。



14Q9 写真図版 440 一つの大松明が鳥居をくぐり、火を上に向けて立つ
12Q9 平成2年1月1日、著者撮影 405°

- ・カラー
- ・左頁の上半分
大きく截せて
下さい。



置土産の御花餅があり、鳥居の外で大松明が満足そうに行く

1409

写真図版441 置土産の御花餅があり、鳥居の外で大松明が満足そうに行く

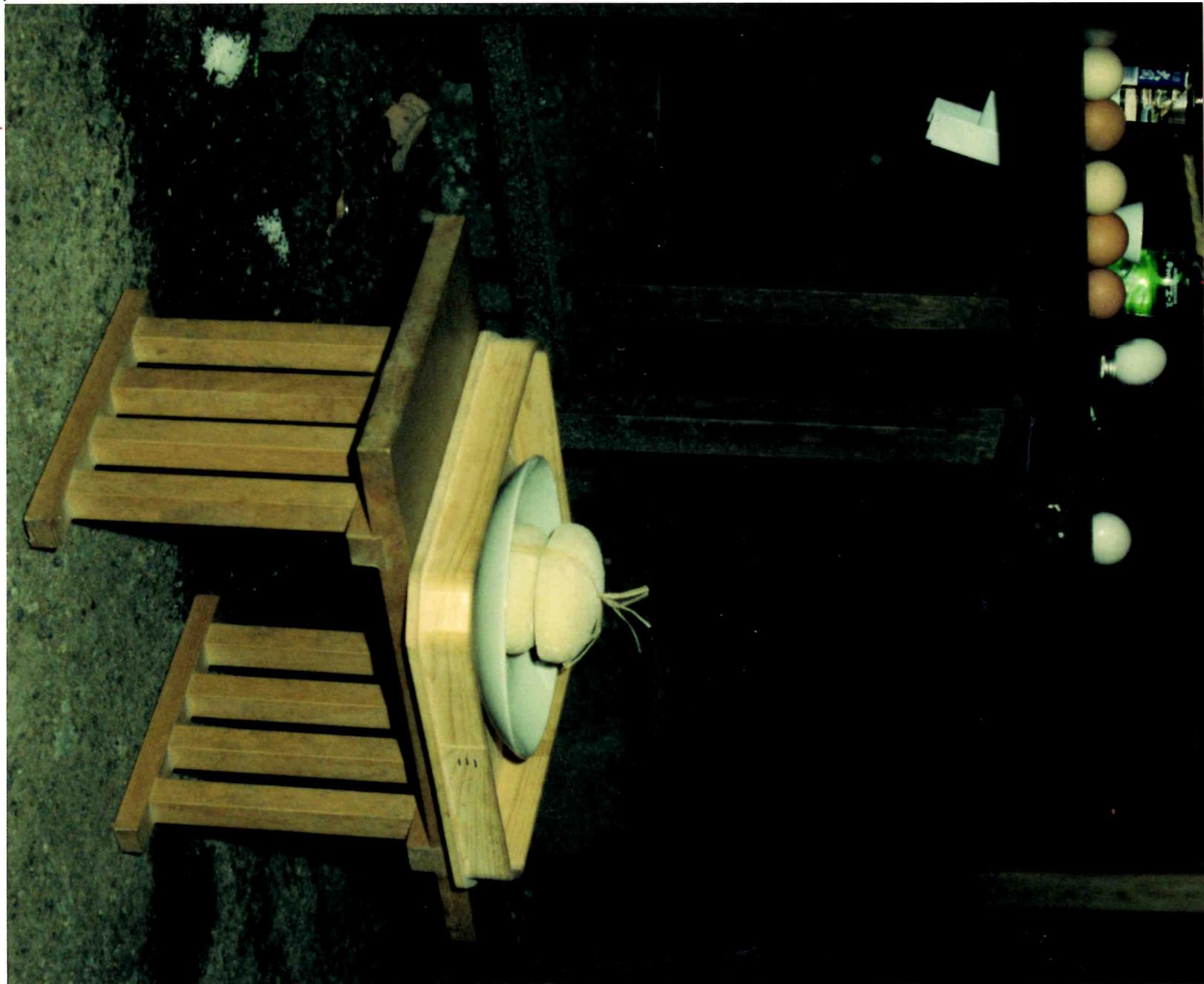
120G 平成2年1月1日 著者撮影

406P

2648^P 4/5

カラ
左頭
下部分
載せ
下さ

カラ



407

カラ

カラ

14回写真図版 442

御花餅

407

12回
御花餅は上・下の
平成2年1月1日 著者撮影
真白である。(平成26年11月18日 大神神社神職者談)

2687 続道祭 1748 精力絶倫 1233
 2648-5 繰 9020 精力絶倫 1529
 大神神社 178

つまり、白口御花餅、女陰（鳥居）
 の内なる腹中に放出されて、社前に留め置か

水

2648-5
 1748
 9020

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

6

この時、齋主（権宮司）が祝詞を奏上する
 ひきつづりにて、王事拜元を行なうと、
 精力絶倫である神山の火男は、夜を徹して
 本社へ帰還し、てようやく四時近くにな
 てようやく四時近くにな

2648-5
 1748
 9020

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

178

6

この時、齋主（権宮司）が祝詞を奏上する
 ひきつづりにて、王事拜元を行なうと、
 精力絶倫である神山の火男は、夜を徹して
 本社へ帰還し、てようやく四時近くにな
 てようやく四時近くにな

2648-5
 1748
 9020

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

178

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

178

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

178

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

178

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

178

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

178

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

178

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

178

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

178

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

178

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

178

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

178

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

178

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

178

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

178

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

178

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

178

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

178

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

178

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

178

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

178

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

178

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

178

1233

1529

178

6

1233
 1529
 178

大神神社

178

1233

1529

H30(2018) 7.2(月)~ 実力 2257 予測
7.3(火) 床 何とか 雑貨
H31(2019) 2.9(土)~2.9(日) 予測
合計金額(2019) 7.15(火)~7.16(水)

歲旦元 860

2,649

1810 え きときらら うらな 木林 大神神社 176
久々久 1121 吉凶 538 ト う 1711

大神神社の淨火を争って、いただくと、いう風習は古くからの伝統であり、移火の屋によつて、その年の年の吉凶が卜われるのである。

番にお火を持ちかえつた若者は、その村の英雄とてたたえられ、米何俵とか、酒何本とか、酒何本とか贈られ祝福されていった。これは、人最近まで、火づけられた慣習だつた。

一方、大神神社境内の火に燃える御神火から移しとつた小松明や火縄を手にする人々